



学校だより

横浜市立洋光台第一小学校

www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai1/

令和2年8月31日発行

令和2年度



防災の日

副校長 宮崎 恵子

例年より短い夏休みが終わり、8月17日から再び学校生活がスタートしました。夏休み明けは暑い日が続き、先生達は朝から『暑さ指数 (WBGT)』を計測し、外での運動や活動が可能なのかを確認しながら授業の準備をしています。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、換気をしながら使用していたエアコンも、夏休み明けはあまりの暑さで教室の温度が下がらず、教育委員会からも「室内温度を下げてから、定期的に換気を行う」との連絡が届きました。さらに登下校についても、友達との距離をとることで「つらいときはマスクを外して!」と話をしています。今年の夏は学校も、新型コロナ感染症と熱中症との同時進行で対策を考えています。そして、そのために予定していた授業参観が延期になり、大変申し訳ありません。今後も、まだまだ先が見えない状況ですが、職員で話し合いながら、子どもたちや保護者の皆様にとってより良いと思われる方法を探って参りますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

さて、9月1日は防災の日です。1923 (大正12)年9月1日に発生した関東大震災の教訓を忘れないという意味もありますが、それだけではなく、この時期は台風のシーズンでもあり、「台風、高潮、津波、地震などの災害について認識を深め、これに対処する心構えを準備しよう」というのが防災の日創設のねらいだそうです。

関東大震災は体験されている方も少なくなりましたが、平成の2つの大地震「阪神淡路大震災」「東日本大震災」の恐怖は忘れることができません。さらに近年、台風や豪雨による河川の氾濫や土砂災害による被害も続いており、今年7月に熊本を襲った豪雨災害は記憶に新しいところです。私も実家が川の近くだったため、増水や氾濫により何度か床下や床上の浸水を経験しました。幼い頃、母に手を引かれて近くの学校の体育館に避難したこともありましたが、不安な気持ちを抱えて歩いた夜道の光景は未だに忘れられません。

防災の日やその前後の防災週間は、これらの自然災害から身を守るためにできることを考えたり、そのための訓練を行ったりすることで、災害に備える良い機会となっています。本校でも防災週間に、全校児童・職員で、震度7レベルの大地震を想定しての総合防災訓練を計画しています。

もちろん、防災のための準備は、常日頃からしっかり行っておくことが大切で、防災の日や防災週間にだけ行うものではありません。また、今は新型コロナウイルス感染症の流行もあり、防災訓練や万が一の際の避難所開設についても、各所で新しい方法を模索していると伺っています。しかし、たとえ準備がまだでも、感染症が広がっていても、自然災害は待つてはくれません。だからこそ、防災の日をきっかけに、「今」できる防災や減災について、考えたり確認し合ったりすることが大切だと考えます。ご家庭でもぜひ話題にいただき、一人一人が防災について意識できるようになってほしいと願っています。